

## 第四回関東地区山岳連盟自然保護交流会開催報告

会期 10月31日(土)～11月1日(日)

場所 茨城県日立市 日立市立会瀬(オオセ)青少年の家 日鉱記念館 神峰山

主管 茨城県山岳連盟自然保護委員会

参加 42名(茨城13、栃木7、群馬3、埼玉5、千葉1、東京6、神奈川4、山梨1、長野2)

概要 日立市の後援にて日立市にて開催された第4回関東地区自然保護交流会に関係者42名が集った。今回の交流会には関東地区1都7県の岳連からの参加に加え、長野県山岳協会からも特別参加を得た。

「自然を尊び、愛し、親しもう」と云う理念の元に、各県の現況などの情報を交換し、日立製作所の発祥の地となり、その基礎を築いた「日立鉱山」の諸問題と共に、その遺跡の見学、又日本最古、5億年前のカンブリア紀が観察できる日鉱記念館など、茨城岳連のスタッフによる2日間の案内で、内容の濃い、交流会となった。

初日は日立市立会瀬(オオセ)青少年の家を会場に、茨城岳連自然保護委員長・中沢隆一氏、常任委員・田上正敏の司会により、日山協・仙石富英常務理事の挨拶で、第一部が基調講演と第二部交流会を第一日目、神峰山などエクスカーションを第二日目とし開催された。

第一日目の第一部の基調講演では、講師に茨城岳連、元会長・金沢信二氏を招き、「日立鉱山大煙害～公害問題の先駆け、煙害を克服した人々～」との演題で1時間ほどの講演となった。講演概要は次の通り。「4大銅山のひとつに数えられる日立鉱山(明治38年創業)も、亜硫酸ガス(SO<sub>2</sub>)による煙害が深刻で、環境改善に向け、大煙突(当時画期的とされた高さ155.7mの煙突によりガスの拡散を図る)と神峰山頂の気象観測所の施設建設や、煙害地への大規模な植生回復事業、住民の煙害補償の交渉などが巨額な企業投資が行われた。今でいうCSRの原点といえる。」— 公害の克服に向け、企業と地域の共存共栄や自然回復の中で奔走した人物列伝を伺い、自然保護をキーワード奔走した人々の厚い思いを感じさせる講演となった。

第二部は日山協、松隈自然保護委員長、茨城県岳連会長・二階堂章信の挨拶を受け、各都県の自己紹介及び活動報告を取り混ぜ、参加者の全てが発言し意見交流を行い、夕方5時過ぎまでの実り多い交流会となった。

2日目は6時半、起床、朝食後、日鉱記念館へ移動、途中、大煙突(現在は54mを残して崩壊)を見学、日立鉱山が閉山するまでの76年間の活動した、展示物などを見学した後、今日の目的地、神峰山(かみねさん)598mにハイキングしました。頂上から南西面の向かい側には、花の100名山で有名な高鈴山623m(イワウチワ)があります。阿武隈山地の南端に位置する神峰山は首都圏からの日帰りハイキングのコースでも知られていますが、旧日立鉱山が操業していた場所でもあります。山頂にも気象観測所を設置して、風向きによっては、大煙突からの排煙(操業の調整)を調整したようです。山肌の回復の為に、耐煙性に強いオオシマザクラ、オオバヤシャブシ、ヒサカキなど植林活動のあとが見られて、記念館での説明に納得した次第です。下山後、茨城岳連スタッフの方々に見送られての、散会となった。

(西山常芳 自然保護副委員長記)



会場にて



神峰山頂にて